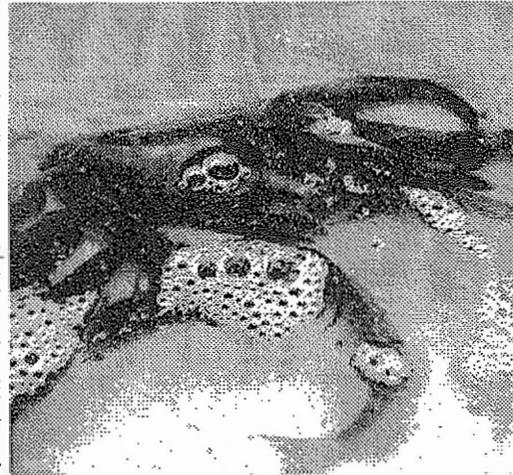


小学3～4年生がマダイ稚魚放流

元気で育ってネ

小網代湾奥で2500匹



児童たちの手で放流されたマダイの稚魚



「大きくなつてネ」と稚魚に声をかける小学生たち

みうら学・海洋教育研究所とNPO法人小網代パール海育隊(通称・小パール隊、出口浩代表)は、13日小網代湾でマダイの稚魚約2500匹を放流した。参加したのは名向、旭、南浦、剣崎、三崎各小学校の3～4年生約160人。児童たちは「バイバイ」「元気で育つんだよ」などと声をかけながら放流した。

放流された稚魚は体長6～7センチで、神奈川県栽培漁業協会が今年6月前後から育てたもの。午前中、名向、旭、南浦、午後から剣崎、三崎両校の児童たちが小網代湾奥の放流場所に向かった。稚魚は小さなバケツに分けられた後、滑り台式の『水中スライダー』のような器材を使って湾内に放流された。この器材の上には海水が流され、魚が傷つかないよう工夫されている。

放流に初めて参加したという飯田翔君(名向3年生)は「楽しかったです」、戸叶ななさん(名向3年生)は「元気で帰ってきてね」と声をかけました」などと笑顔で話していた。小網代パール隊は小網代の海を舞台に地域と一緒に環境を学びながら守っていくことを掲げる海洋教育最前線の団体。稚魚放流のほか真珠養殖、アマモの再生などを通してみんなが海を知ったり、楽

分けられた後、滑り台式の『水中スライダー』のような器材を使って湾内に放流された。この器材の上には海水が流され、魚が傷つかないよう工夫されている。

放流に先立ち、即席の海洋教育ミニ講座が開かれ、同協会専務理事で元県水産技術センター所長を務めた今井さんが臨時講師を務めた。今井さんはマダイが卵から孵化して稚魚になるまでや海上のイクスに移されて放流するまでをわかりやすく解説した。「標識をつけたマダイが20年後に大磯で捕獲されたことがあり、養殖されたマダイが最低でも20歳に達することがわかつ

た。放流は毎年神奈川県から静岡県にかけて行われ、70万匹から80万匹が放流されている」などと紹介した。